

## 門徒推進員研修協議会が開催

去る二月二十八日(土)、西本願寺高岡会館にて門徒推進員研修協議会が開催され、門徒推進員四十六名が参加した。

今回のテーマは「浄土真宗の教えは私に何をもたらすのか」俗世間の問題と仏法は関係ない、という考え方が伝統的な宗教観として未だ根強く残る一方、混迷する世の中を生きていく私たちに、真宗の教えはどのような指針を与えようとしているのか、私たちの拠り所となる信仰のあり方を一度確かめることを狙いとして開催されたもの。

講義では最初に講師の津山玄亮さん(同朋運動専門委員長、糸岡組願称寺住職)より、「仏法

と現実の様々な問題は本当に全く無関係なものだと思っ  
ていますか?」と投げかけがあり、



「宗教とは心の中だけの問題という受け止めは世界的に見れば少数で、キリスト教やイスラム教にせよ、その教えが信徒の行動規範や基本倫理となつている」と指摘。

真宗の教えにも同じことが言えるとして、「問引き」による人口調整が横行していた江戸時代の大飢饉を例に、その当時でも真宗の盛んな地域では、阿弥陀如来の願いに従い「問引き」を行わなかったことを挙げられた。

講義の後には長久義樹さん(若神組門徒推進員)より意見発表があり、「臓器移植や公害などの社会の問題は全ての人間に関わる問題であり、私の学んだ仏教の精神から見て、これを無関係だと看過することは出来ない」と意見を表明された。

分散会を受けた全体会では「心の安らぎを求めて寺に通っていたが、信仰とは普段の自らの行動が問われることだという視点は新鮮だった」「念仏一つだけでいいと教わってきたが、これはどう考えたらいいのだろうか」等の意見が出された。

最後に講師の津山さんより「心と行動は無関係ではありません。他人の悪口ばかりを言っているなら、その人の人柄も悪くなるでしょうし、心は行動に現れます」「念仏申す人生とは、自分だけの殻に閉じこも

らず、如来の願いによって自分自身が作り替えられる、人々の苦しみに共感し、積極的に社会にかかわっていく態度が形成される。念仏とは昨日の自分から新しい自分に脱皮しろという如来からの呼び声と励ましではないでしょうか」と助言があり、閉会した。

また、二月二十六日(木)に各組連研スタッフを対象とした「連研のための研究会」が開催され、「連研における話し合いの意義」その目的と役割」をテーマに山岸智史さん(五位組珉照寺住職)、城野至界さん(伏木組善證寺衆徒)がそれぞれの組での取り組みや話し合いの意義について意見を発表し、学びを深めた。(詳細は実践運動のコーナーにて)

## 新湊組妙蓮寺仏壮Bが優勝

2月22日の日曜日、教区仏壮連盟のボウリング大会が高岡スカイボウルで開催され、16仏壮が参加。1チーム4名の28チームで順位を競いました。

結果は、新湊組妙蓮寺仏壮Bが優勝。準優勝は川上組下川崎仏壮、3位は氷見西組明泉寺仏壮Aでした。

## ブロック別門徒総代研修会がはじまる

教区門徒総代会（石灰治一会長）主催による二〇一四年度ブロック別門徒総代研修会が、三月三日の第一ブロックを皮切りに、順次開催されている。

今回のテーマは「報恩講をお勤めする意味は？」。核家族化が進む中、家庭内や家族間でも大切なことが伝わりにくくなってきている今、浄土真宗の大切な行事である報恩講の意味もなかなか伝わりにくくなってきた。特に「ご門徒宅で勤めるいわゆる「廻り報恩講」の意味は次第に薄れつつある。そんな現状をふりかえって、あらためて報恩講の意味を確認しなくてはならないのでは？」という思いから、今回のテーマが設定された。



班別の話し合いでは、お寺の報恩講について、「子どもの頃祖母に連れられておまいりしたが、露店も出て楽しかった」「羽織をまとった正装でお参りされていた」など、またご門徒宅での報恩講については「家族全員でいただくお斎がある」と、報恩

の頃祖母に連れられておまいりしたが、露店も出て楽しかった」「羽織をまとった正装でお参りされていた」など、またご門徒宅での報恩講については「家族全員でいただくお斎がある」と、報恩

ほか、「報恩講の意味を伝えてくれるようもつと僧侶方に奮闘してほしい」「現実の問題に即したわかりやすいお話を聞きたい」など、僧侶側には耳の痛い意見も出された。

今回のご講師の巢山一哉師（富山南組圓福寺・写真左上）は報恩講について「もとは浄土真宗だけのものではなかったが、今では報恩講こそが浄土真宗の最大の特徴。永代経やお盆などは他宗でも行っている行事。報恩講を勤めることこそが浄土真宗のお寺・門徒。先祖の恩に報いると思っていたとの意見もあったが、弥陀如来の本願他力によって救われることを私たちに教えてくださった親鸞聖人の恩に報いるということ、聴聞の場であることを忘れてはならない。」と、報恩



講の現状を交えて話された。

これまで第一・第三・第二ブロックが終了。来る十九日に第四ブロックが氷見組担当で開催されることになっている。



## 前進座特別講演のお知らせ

『如月の華』 一九條武子ものがたりー

2015年6月24日（水）高岡市文化ホールにて前進座特別講演「如月の華」一九條武子ものがたりーが上演されます。

ご観劇料金は、6千円（全席自由）。午後2時に開演～午後4時45分に終演となります。チケットは高岡教務所並びに、各組長事務所にて販売を致しておりますので、お買い求めください。皆様におかれましては、この機会にぜひ、観劇くださいますようご案内申し上げます。

## 御同朋の社会をめざす運動の「コーナー」

### 「連研のための研究会」を終えて

先月二十六日、二〇一四年度「連研のための研究会」が行われました。今回のテーマは「連研における話し合いの意義」その目的と役割」でした。しかし、いざ話し合いが始まると、話し合い法座の意義、目的よりも連研を行う意味をどう捉えるか。門徒推進員の役割をどう考えるか、連研のテーマ設定（差別問題）の方に重点を置いた話し合いがされたようでした。

一九五〇年、宗門では、「差別、被差別からの解放」を目指して「同朋運動」を開始しました。一九七一年、「全員聞法・全員伝道」を目指して、「あなたのお寺を強くしよう」を合言葉に門信徒会運動が始まりました。宗門では同朋運動と門信徒会運動の二つを最も大事な運動と位置づけ、「基幹運動」としたのです。この「基幹運動」を推進する人が「門徒推進員」です。連研は「門徒推進員養成」のための研修会です。

連研の願いは「基幹運動」を推進し、現実社会でお念仏を広め差別を無くし、御同朋の社会を目指すものでした。この基幹運動の受け止めが僧侶も門徒も共有化できないまま「あなたのお寺を強くしよう」が、お寺の経営維持発展のためと勘違いされ、お寺に人を集めるのが「門徒推進員」の役目だと思われがちではないでしょうか。

「あなたのお寺を強くしよう」と言いますが、強いお寺とは差別の現実から逃げないお寺です。門徒さんの苦悩から逃げずに共に話し合い、「差別、被差別からの解放」を目指すお寺が「強いお寺」です。今のお寺は現実の社会問題、差別問題とは無関係です。そんな寺院の姿を、世間は「葬式仏教」だとか「がんばれ仏教」などと揶揄しています。「全員聞法・全員伝道」と言いながら人の話を聞かない、話し合いを避けている寺院の姿に「仏法は正しいけれども意味がない」などと言われるのではないかと思います。現実社会の

問題を無視し、傍観者として生きる事なく、共に苦悩を共有し正しい生き方を仏法に問い聞く。このために必要なのが、話し合い法座です。

連研は話し合い法座を中心に、社会で、家庭で、お互いが抱える現実の苦悩に向き合い共通の課題を仏法に問い聞き、正しい方向性（自分の言動）を見出すための研修会です。

連研の話し合いの中で、「話し合い法座はやりたくない、講義中心の連研がいい」「何故、ヤスクニや差別問題をやらなければならないのか」などの意見があります。話し合い法座では、他の人に自分がどう思われるのか、周りの目が気になります。ありがたい話は聞きたいが、厄介な差別問題なんか聞きたくないのです。誰もが差別は嫌です。最も悪だとわかっているからこそ、差別問題には触れたくありません。差別問題に立ち向かうことは、私とその加害者であることを認める事になるからです。

基幹運動は、自らの差別体質を如来の本願に照らされ、恥ずべし、悔むべしと自覚した所から始まりました。話し合うことでお互いが反省し、そこから、正しい言動への歩みが始まります。


お互いが話し合うことにより解りあえる。そして共に現実の苦悩に立ち向かえる仲間ができる。この「支えあう仲間」作りこそが、連研最大のメリットではないでしょうか。組を越えて、教区を超えて、より多くの門徒さんとゆるやかにつながる事で、一人では避けていた現実の差別問題にも逃げない生き様を見出すことができるのです。

今回の研究会で、連研が「御同朋の社会をめざす運動」なのだと改めて確認することができました。

【伏木組善證寺衆徒 城野 至界】



これからの日程 ( 3 / 2 0 ~ 4 / 2 0 )

|    |                                  |   |
|----|----------------------------------|---|
| 3月 |                                  |   |
| 20 | 少年連盟指導者研修会                       |  |
| 21 | 氷見東組巡回<br>雨晴苑追悼法要                |   |
| 23 | 寺女役員会                            |   |
| 25 | 長寿苑ビハーラ活動<br>教区コーラス練習日<br>教区委全体会 |   |
| 26 | 新任保育士研修会・理事会<br>龍谷高校理事会          |   |
| 27 | 定期教区会                            |   |
| 28 | さくら保育園卒園式<br>中仏生のつどい             |   |
| 30 | 寺女合同委員会<br>寺青声明サークル              |   |
| 31 | 寺院振興対策委員会<br>龍谷高校辞令交付式           |   |
| 4月 |                                  |   |
| 1  | 雨晴苑ビハーラ活動                        |   |
| 6  | 布教団総会                            |   |
| 8  | 龍谷高校入学式                          |   |
| 10 |                                  |   |
| 14 | 常例法座                             | 全国講社大会 ( 本山 )   |
| 17 |                                  | 仏婦総連盟懇親会 ( 京都 )   |
| 18 |                                  | 仏婦総連盟総会 ( 本山 )  |
| 20 |                                  |   |

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 ( K N B ) ・ 7 3 8 kHz.  
毎週土曜日 ( 本山制作 ) 午前 6:15 ~ 6:25  
第 2 ・ 4 日曜日 ( 富山・高岡制作 ) 午前 6:00 ~ 6:10

- 3 / 14 ( 土 ) : 天野 敦子 氏 ( 北海道・誓報寺 )  
「あたたかいのがごちそう」
- 3 / 21 ( 土 ) : 天野 敦子 氏 ( 北海道・誓報寺 )  
「坊守はご門徒と一緒にいる」
- 3 / 22 ( 日 ) : 石川 聖子 氏 ( 富山教区・玉永寺 )
- 3 / 28 ( 土 ) : 天野 敦子 氏 ( 北海道・誓報寺 )  
「人と人をつなぐ」
- 4 / 4 ( 土 ) : 天野 敦子 氏 ( 北海道・誓報寺 )  
「お寺へなじむご縁を」
- 4 / 11 ( 土 ) : 玉木 興慈 氏 ( 龍谷大学教授 )  
「それなら生きよう」
- 4 / 12 ( 日 ) : 安達 秀憲 氏 ( 高岡教区・空泉寺 )
- 4 / 18 ( 土 ) : 玉木 興慈 氏 ( 龍谷大学教授 )  
「それでも生きよう」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師： 葛本 徹哉 氏

( 大阪教区・高林寺 )

ご講題： 『「十方衆生」の願い』  
午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、 2 時から  
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い  
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 ( 170 袋 ) 8 , 3 0 0 円

・大箱 ( 36 袋 ) 2 , 3 0 0 円

・1 組 ( 10 袋 ) 5 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1298

耳浦 康真 ( 本誓寺 ) Tel. & Fax. ( 0766 ) 23 - 9822

編集後記

内閣府が発表した「自衛隊・防衛問題に関する世論調査」において、九割以上の回答者が自衛隊に好印象を持ち、その中の四分の三に当たる回答者が戦争の危険性を感じているといえます。また、日本が外国に侵略された場合の対応では、「何らかの方法で自衛隊を支援」(五割以上)、「武力によらない抵抗」(二割弱)や、七割以上が国を守る意識を高めるため、教育現場で取り上げるべきだとする回答がありました。

自衛隊に好印象を持つのは、災害支援などの活躍で当然のことだと思いますが、専守防衛や同盟国を援助するという名の下、政治家の命令で戦闘に参加しても、国民は同じくらい好印象を持つものなのかと疑問に感じます。

以前、たまたま知り合った自衛官と話した際、上からの命令があれば従う旨を聞きました。そういった教育がなされているのだと思ったりと同時に、この自衛官が「戦闘に参加」という命令をされなくていいように私たち一人ひとりが、間違った方向に行かないように考えなくてはならないと思います。